

# 私の軌跡

昭和女子大学社会人メンターが語る

昭和女子大学 女性文化研究所

## “自分軸・自分らしさ”の前に道はひらかれる

矢野 圭夏

女性のキャリアは分断されやすい、とよく言われます。例えば、結婚、出産、育児、介護……。たださえ雇用情勢の厳しい現在ですから、女性でなくともすべての人にとって危機や転機というものはすぐそばにあるものではないでしょうか？

そんな中、「好き」な仕事で生計を立てるのはこれまた難易度ランクがぐんと上がるのは、皆さんもお感じになられているところだと思います。

今回は、無謀にも「好き」を仕事にすることを追い求め、社会を漂いながらも自分と向き合い、行動し続けている1人の女性の話をお聞かせしましょう。

### 1. 伝える仕事がしたい！

幼いころから自己主張が強く、違いやオリジナリティに喜びを感じる性格だった私は、自分の体験や感じたこと考えたことを語り合い共感し合い、情報発信することが好きでした。

大学では経済学を専攻していましたが、「情報」を取り扱うメディア・媒体に対する興味は持ち続けていて、ホームページ作りや文章の創作、読者モニターなど、趣味の活動を楽しんでいました。

私が就職活動していた頃（2000年）は氷河期のただなかで、手書きの資料請求やエントリーシートに加えて、インターネットでのやりとりも比較的自由になってきていた時期。当時、マスコミ・人材・外資系の3業種を目標に活動をするも、どれも惜敗。その度に「縁がなかったのよ」と開き直りながら、「運命の赤い糸」を求めて場数を踏みながら半年ほどで他業界から2つ3つと内定を頂き、最終的には内定者懇親会で「この内定者のみんなと一緒に働きたい」と考えたOA機器販売会社へ入社を決めました。

当初は大阪のショールームに配属され、お客様の相談・クレーム対応や機器操作のサポート、パンフレットなどの販売促進ツール作り、新製品提案イベントなど様々な業務を経験。初めは先輩に聞きながらだったことも、次第に自分で考えてできるようになりました。いくつか仕事を任されて成果を出すうちに、もっと大きなマーケットで仕事をしたいと強く思うようになり、無謀にも東京本社への異動願を出しました。日本の中心、東京。情報が一挙に集まるだけでなく、新鮮な情報が発信される場所。そこで働くことは、きっと大きな意味を持つと信じていました。1年後、辞令が下り、憧れの地で新たな社会人生活が始まるのですが……。

東京の配属先ではお客様と接することはなくオフィス向け製品の販売促進に携わっていましたが。そこは大阪での経験とは180度異なる世界で、めまぐるしい日々。数々の試練に、枯れてしまうのではないかとと思うほどの涙を流しました。とても業務量が多い部署のため夜中にタクシーで帰ったり土日に出社したり、繁忙期には身を削ることも。休暇を取った翌日はメールチェックに怯えることもありましたが（何十通も

